

令和6年度第2回 京都市子どもを共に育む京都市民憲章推進協議会 会議録

1 日 時 令和7年3月26日（水） 午後1時～午後2時20分

2 場 所 Question7階 クリエイティブコモンズ

3 出席委員 松下会長

岩本委員、奥田委員、表委員、樫原委員、木塚委員、末廣委員、中村委員、中本委員、
藤谷委員、藤本委員、宮崎委員

4 次 第

（議題）

- ・令和7年度行動指針（案）について
 - ・緊急の方策に係る動向
 - ・行動指針のテーマ（案）
 - ・行動指針（案）
- ・令和7年度「京都市はぐくみ憲章」実践推進者表彰（案）について
- ・憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和7年度取組（案）について

（報告）

- ・「京都市はぐくみ憲章」子育て応援交流会について

5 会 議 録

（確認事項）

- ・永田憲太郎委員の後任として渡守紘宜委員が新しく就任。（京都青年会議所）
- ・出席の委員が全委員の過半数を超えるため、会議が成立している。

【議題】

（1）令和7年度行動指針（案）について

事務局

児童虐待、いじめ、児童ポルノ、薬物（大麻・ドラッグ）、HIV・性感染症、インターネット依存に関する動向について説明した後、令和7年度京都市はぐくみ憲章「行動指針」（案）について説明。

（案1）Let's はぐくみアクション！～みんなで声かけ、広げよう！子育て支援の輪～

（案2）Let's はぐくみアクション！～子どもと向き合い、みんなで深めよう！地域のつながり～

（案3）Let's はぐくみアクション！～大人も子どもも一緒に拓く明るい未来～

委員

漢字が多く子どもには読みづらいと思うが、リーフレットを見る人は誰か。

事務局

普及啓発の対象は大人を想定している。

委員

昨年度のキーワード「寄り添う」を踏まえて、今年度は、直接的なアクションに繋げていくため「対話」という趣旨を盛り込んでいただきたいと思うが、案1～3ともにその趣旨が入っているため良い。

委員

案1が具体的な行動がわかりやすく良い。リーフレットのイラストについて、典型的な家族像のイラストのみのため、母子、父子家庭等多様な家族の在り方に配慮が必要ではないか。

委員

「地域の繋がり」は言いふるされた言葉だが大事なキーワード。案3の一緒に拓く明るい未来もい

い。人によって感じ方は違うが、目指す姿のイメージが湧きやすいフレーズが良い。

委員

案１～３ともに良い。案１の「みんなで」を「大人も子どもも地域みんなで」というように具体的な表現に言い換えて示しても良いかもしれない。

委員

子どもに対してどう行動すべきかを示すにあたり、案１が良いのでは。憲章の６つの行動理念をもっとアピールした方が良いのではないかな。

委員

「寄り添う」次のステップとして、案２が良いのではないかな。緊急の方策の６つの課題を含めて、子どもと向き合い地域で深めていくという趣旨が良い。

委員

個人的に案１が好みだ。

委員

町内会からも抜ける人が多い中で、地域の子どもの地域で育てるというスローガンも伝わりにくくなっている。ボーイスカウトにおいても、親も一緒にプログラムに参加するよう依頼するが、帰ってしまう親が多い。このような状況だが、地道に活動が続けていくしかない。案１～３はどれも大切だと思う。

委員

案２が良い。地域活動への参加が少ないのが現状だが、やはり地域のつながりは大切。案３は漠然としているように感じる。

委員

「Let's はぐくみアクション」の次に来るフレーズなので、より具体的な表現の案１か２が良い。

委員

案１がいいのではないかな。案２、３は少し抽象的。ＰＴＡの立場としても、案１に親和性があり、分かりやすい。昨年度からの継続性もある。

会長

皆様からのご意見を踏まえて、拍手で採決を取りたい。

(拍手による採決)

会長

採決の結果、案１で決定としたい。今回の行動指針テーマは、誰でもどんな立場の人でも実施できるもので、これまで以上に広がっていくことを期待している。

次に、すぐに修正することは無理かも知れないが、先ほど、委員の発言にもあったとおり、イラストデザインを多様な家族像を踏まえたものへ、修正をご検討いただきたい。このほかに改善等の意見はないか。

(出席者から異議なし)

(２) 令和７年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰について

事務局

令和７年度「京都はぐくみ憲章」実践推進者表彰募集について説明。

会長

事前審査の結果、大賞候補となった上位５団体を３団体へ絞るために、事務局において追加ヒアリングを実施いただくこと、そしてインセンティブの創設、の２点が大きな変更点。このほかに改善等の意見はないか。

(出席者から異議なし)

(3) 憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和7年度取組（案）について

事務局

憲章の普及啓発及び実践の推進に関する令和7年度取組（案）について説明。

委員

「(5) 京都市子育て応援アンバサダー及びインフルエンサー」について、現在は全て女性だが、はぐくみアクションの普及啓発のためには性別がどちらかに偏るともう一方が動きづらかったり、肩身の狭い思いをするのではないか。幼稚園の送迎が一例だが、まだまだ女性の方が育児負担の大きい家庭が多いようで、男親が送迎に行くと肩身が狭いという経験をしてきた。男女だけではなく多様な性のあり方が認められる世の中になってきたため、情報発信においても多様性への配慮が必要だと思う。現状に異論があるわけではないので、将来の選考時に御留意いただけると良い。

【報告】

「京都はぐくみ憲章」子育て応援交流会について

事務局

令和6年度「京都はぐくみ憲章」子育て応援交流会について実施報告。

会長

当日出席された方から感想や次回の交流会に向けての意見を伺いたい。また、出席されていない方からも質問等があれば伺いたい。

委員

交流会後の懇親会で、さらに繋がりを拡大することができてよかった。

委員

いろいろな人の取組、考えを聞かせてもらえて刺激になった。

委員

参加された団体から、企業とどうすれば繋がることのできるのか相談された。交流会により多くの企業が参加してくれると、支援拡大につながるのではないか。また、他団体の活動内容について、共感できる内容が多かった。難しいかもしれないが、グループトークの時間がもっと長ければよかった。

委員

子ども連れの参加者がいたことが、とてもよかった。色んな団体の話を聞くことで、子育ての励みにしていただけると幸い。今後、子連れでの参加者が増えてくれると嬉しい。

委員

グループセッションで様々な年齢の方と話せたのがよかった。子どものための取組を聞いて、地域に帰って伝えなければと思った。次回もぜひ参加したい。

委員

たくさんの方が参加されて素敵な会だった。他のグループの方々も気になったため、求める繋がりキーワード等を名簿横に記載いただければ、事後の繋がりづくり、声かけのきっかけになるのではないかな。